

皆川ヨ子さんは、日清戦争開戦の前年にあたる明治二十六年（一八九三）に生まれました。父・安永吉太郎さん（慶応二年三月生）、母・ムラさんの八人きょうだいの長女として二月四日に福智町上野（当時上野村）で誕生します。その後、大正八年に二十六歳で皆川唯平さんと結婚。その年に双子の女児を出産しますが、誕生後ひと月ほどで二人とも亡くなってしまいます。生涯で九人の子を産んだヨ子さんですが、三女と五女も幼くしてこの世を去り、五十三歳の時に夫・唯平さんに先立たれるなど、悲しい思いも経験してきました。

しかし、ヨ子さんはくじけず、ことごとく田畑を耕し、育てた野菜や花をリヤカーに乗せて、赤池の炭坑住宅街まで行商しながら、五人の子を育て上げました。現在は七人の孫と十二人のひ孫、二人の玄孫に恵まれています。

「労苦を惜しまず乗り切った ヨ子さんの生い立ち」

「皆川ヨ子さん長寿世界一」の連絡が報道機関から寄せられたのは二月二十九日、夜十一時過ぎのことでした。ヨ子さんが五年前から暮らす特別養護老人ホーム「慶寿園」上野では、午後十一時半ごろ、たまたま起きていた皆川ヨ子さんに「おめでとう、世界一ですよ」と夜勤だった香月スマズさんが伝えると、照れくさそうに「ほお、そうかな」と答えたといえます。

一夜明けた三十日の朝には、早速ヨ子さんが新聞紙面を飾り、施設は祝賀ムードに包まれました。ヨ子さんは朝食のおかゆとみそ汁、ミキサーにかけた切り干し大根を完食。入所者のみなさんから「ヨ子ちゃん、世界一おめでとう」と声をかけられると、満面の笑みで応えたそうです。

そのころすでに、施設の玄関前には大勢の報道関係者が集まっていました。浦田弘二町長は、公務による午前中からの上京のため、その出発前にお祝いに駆けつけました。ヨ子さんは浦田町長の祝福の握手に「町長さんまで、ありがたいこと」と感謝。いつもより会話も多く、くじけずな様子でした。

午後には「慶寿園」で祝賀会が開かれ、施設二階の会場で、およそ三十人の入所者や職員が、車いすで登場したヨ子さんを拍手で迎えました。ヨ子さんは軽く右手を上げてニッコリ。しかし、つめかけた大勢の報道陣には少し驚いた様子でした。一斉にカメラが向

けられ、やや緊張した面持ちのヨ子さんでしたが、玄孫（孫の孫）で双子姉妹の川口祥知ちゃんと英夏ちゃん（二歳）が花束を贈って手を握ると、穏やかな笑顔を浮かべ「ありがとう、サンキユ」と得意のフレーズを口にし、周りを和ませました。

町もヨ子さんの横断幕や懸垂幕をその日のうちに発注し、およそ一週間後には役場や公共施設、県道の陸橋など七か所に設置。「祝長寿世界一 皆川ヨ子さん」と掲げ、祝賀ムードを盛り上げました。

長寿世界一を感した ヨ子さんの長い長い一日

1月30日・長寿世界一としての初日

④報道陣の取材前に身だしなみを整えるヨ子さん。①自ら手ぐしで髪型もセットしていた。⑦7台のテレビカメラと6社の新聞記者がつめかけた長寿世界一の会見。午前と午後の2回行われた。⑥施設職員に囲まれたヨ子さん、花束を抱え世界一の笑顔を浮かべた。



①記念すべき日、朝一番のヨ子さんの来客は浦田弘二町長。10分ほど談笑し、固い握手をした。ヨ子さんはさすがに様子で会話も多かった。②その後、赤池町最高齢者になった時の町長である日野喜美男県議会議員がお祝いに訪問。お互いに当時をなつかんだ。

ヨ子さんの 世界一の 表情

Yone Minagawa
the oldest in the world



寄せられた声



◎川口 祥知 ちゃん
◎川口 英夏 ちゃん

ヨ子さんの初玄孫で双子姉妹 ▶2さいになったよ。よねおばあちゃん、せかいいちおめでとう。さちも、はなも、うれしいよ。



川口 佳代 さん
ヨ子さんの初ひ孫で安永さんの子

▶昔と少しも変わらない、本当に優しいおばあちゃんです。「社会に出て親孝行しなさい」と激励されたことを覚えています。



平山 美智子 さん
同居していた三男の長女

▶毎月会いますが、逆に「寒いじゃないかね」と気遣ってくれます。世界一でなくても元気でいてくれたら、それが何より幸せです。



安永 昭俊 さん
ヨ子さんの初孫

▶世界一なんて夢にも思わず、驚きました。若いころから常に働き続けてきた気丈な人です。これからも長生きしてほしい。



小松 春義 議長
福智町議会

▶三男の學さんからヨ子さんのご健康な話を常にお聞きしていました。この度の世界一、議会を代表してお喜び申し上げます。



浦田 弘二 町長
福智町

▶皆川ヨ子さんは町の誇りであり健康長寿の象徴。世界一の年齢はもちろんのこと、そのお人柄に敬慕の念を抱いています。

そのころ… 明治26年(1893)

皆川ヨ子さんが生まれた明治26年(1893)は、日清戦争開戦の前年にあたります。大阪と神戸で電話が開通し、夏目漱石が東京帝国大学を卒業した年です。同年生まれには、中国建国の父とされる毛沢東や婦人参政権運動に尽力した市川房枝、作家の獅子文六、洋画家の木村荘八などがいます。また白虎隊で知られる会津藩の元藩主・松平容保が59歳で亡くなった年でもあります。